

2015年度予算 小中学校 管理備品費

6千万円→0円に バツサリ削減!



一方 文化芸術ホールなど大型プロジェクトは目白押し

日本
共産党
市議団

市民の暮らし第二の市政への転換を要求!

町田市議会2015年第1回定例会が2月26日～3月27日まで行われ、日本共産党市議団は安倍暴走政治ストップと切実な市民要求実現に奮闘しました。石阪市長が提案した2015年度一般会計予算は、学校教育や障がい者福祉予算等を大幅に削減する一方、「文化芸術ホール」整備など大型公共プロジェクトは目白押しであり、市民の暮らし第一に転換すべきと論戦し、反対しました。

石阪市長は、新年度の施政方針で、「町田駅周辺プロジェクト」として、町田市民の誇りとなる一流の文化芸術ホール整備のため、今年度は基本構想策定を始めると述べました。これについて共産党の殿村健一市議が一般質問で、池川友一市議が代表質疑でただしました。昨年5回行われ



380種類のバラが咲く野津田公園ばら広場

野津田公園、薬師池公園、芹ヶ谷公園、鶴間公園の再整備が計画されています。野津田公園の「スポーツの森」構想の中では、市民のみなさんに長年親しまれてきた『ばら広場』が存続の危機に立たされています。市民の理解と合意のない大型プロジェクトは行うべきではありません。

た「文化芸術によるまちづくり座談会」で、「町田駅前に2500席以上のホールを持つ多目的ホールの建設が必要である」との意見が大勢を占めたとの座長の報告について質問。「一流とは?」「オンリーワンのホールとは?」と何度質問してもかみ合った答弁は一度もありませんでした。専門家からは莫大な費用負担(数百億円・都政新報)を要するとの指摘がありました。市民の合意がない上、都市間競争に勝つための手段として建設ありきの文化芸術大ホールへの税金投入は許されません。計画の白紙撤回を求めました。

学校教育予算の充実を!

「子どもたちの未来を創っていく責任があります」――石阪市長は、施政方針でこのように述べました。

ところが、今年度、学校運営に関わる予算は、バツサリ削られています。一般会計の経常経費は総額4億円削減されましたが、そのうち学校教育費は2億5千万円(62.5%)と、もっとも大きい削減額となつていきます。昨年度、小中学校管理運営の備品費は62校で約6000万円でしたが、15年度は0円なのです。備品費と消耗品費を合わせると、1億1459万円の削減です。すでに、学校現場からは「学校運営に支障をきたすかもしれない」という声も寄せられています。この削減の規模について市教育委員会も「想像できない」というほどです。

さらに、「保護者の負担軽減を図るための事業は削減しない」と言いながら、小・中学校集団宿泊行事補助金は削減されています(別表)。これに加えて、バス一台あたりの

単価が上昇しており、補助金の変更がなかったとしても保護者負担は増えているのです。未来をになうのは子どもたちです。教育は、子どもたちを育てる極めて重要な仕事であり、地方自治体の第一義的な仕事です。学校教育予算削減を転換し、抜本的充実のために市民のみなさんと力を合わせてがんばります。

集団宿泊行事補助金	旧補助額 2014年度	新補助額 2015年度	前年比
小5 (バス1台あたり)	72,500	70,000	△2,500
小6、中1、中2 (バス1台あたり)	130,000	120,000	△10,000
中3 (新幹線1人あたり)	12,000	11,000	△1,000

集団宿泊行事交通費補助金(円)